

1. 事業の概況および成果

＜建設事業(海外事業)＞

今年度も、それぞれの地域の少数民族の教育の現状と課題を踏まえ「学校等建設」及び「教育支援プロジェクト」に継続的に取り組みました。こうした取組みの推進のため、各国パートナーおよびNGOとは、現地訪問の機会はようやく再開したもののまだまだ本格的な往来は限られることから、オンライン会議やメール等、緊密な連携を深めながら、事業を進め、支援者の皆さまには、直接のコミュニケーションに加えて、写真・動画等による進捗状況や報告を重ねました。

コロナ禍によって中断していたアジア教育協会(以下、AEFA)による現場訪問および日本の支援者が直接参加しての開校・開所式は、2022年9月よりベトナムにおいて再開することができました。

学校建設(建設中を含む、現地への送金ベース)の実績は、ラオス(1校)・ベトナム(3校)・スリランカ(2校) 合計6校(表1参照／完成済は2校。4校は建設中)となりました。

(表1)2022年度建設校一覧

	国名	地域	学校名	支援者(敬称略)
1	ベトナム	トゥエンクアン省	ビンフー小 (Binh Phu)	アジアの子供たちに学校をつくる 議員の会
2		タインホア省	ルオンチュン小学校 モットドイ分校 (Mot Doi)	横浜幸銀信用組合 (旧チョイモット分校)
3			イエンタン小学校 クーヴァン分校 (Khu Van)	エルセラーン1%クラブ
4	ラオス	チャンパサック県	ナンサイター小学校 (Namsaytha)	国際協力NGO 風の会
5	スリランカ	南部州	カワンティサプラ・マハー 小中学校 (Kavanthissapura Maha)	一般寄附
6		西部州	イルコーウィタ小中学校 小校舎 (Illukovita)	㈱やすらぎの部屋 シルバーアーチ基金

昨年度の事業によって建設中であった4校も完成し、AEFAの事業開始以来18年間の学校建設の累計は333校(ベトナム183校、ラオス119校、タイ15校 スリランカ12校、中国2校、ネパール2校)となりました。

各国の取組みについては以下のとおりです。

ベトナム

学校建設については、東北部トゥエンクアン省およびタインホア省において3校の小学校建設(改築を含む)を進めました。レインボーライブラリープロジェクトによって、図書館建設と読書啓もう活動を4館で新規に着手しました(累計23館)。すでに建設を終えた学校における読書啓もう活動も17館において並行してプロジェクトが進められました。読書啓もう活動の締めくくりとして、ティエンボ校等の9校でクロージングセレモニーを開催しました。クロージングセレモニーには、支援者もオンラインで参加し、児童との交流を行い、プロジェクトへの理解を深める場面もありました。

2021年から継続実施してきたコロナ禍が児童のメンタルヘルスにおよぼす影響を調査・分析し、具体的な対応活動を進めるためのStar Fishプロジェクトは、フェーズ2に移行し、保護者がこれらの問題に関する理解を深めるため、専門家による講習に取り組むといった具体的な対応段階に入りました。同じく継続的に取り組んできたFaster Plusプロジェクト(バレーボール)では、筋力や持久力をつけ運動不足を解消するとともに、児童がチームワークで協力する力を養いました。学力だけでなく、児童の心身の成長と健康に関わる教育支援プロジェクトは、子どもたちにとっての効果も観察され、現地におけるニーズもますます拡大してきています。

学校集中化といったベトナム政府の教育政策の転換や経済成長の影響による格差拡大によって、学校建設や教育プログラム提供のニーズが変化する中、引き続き、現地と緊密な連携を取りながら、それぞれの地域や学校に応じたプロジェクトの提案やマッチングを継続していきたいと考えています。

ラオス

学校建設については、南部チャンパサック県の小学校の改築に取り組んでいます。本事業は国際協力NGO風の会との連携で実施したものです。AEFAとしてラオス初の図書館建設と読書啓もう活動(キャンドルライツライブラリー)は、南部サラワン県のクアセツ小中校において建設し、12月に開館、活動を開始しました。同月22日、小中合同で読書イベントを実施し、自分の好きな本の紹介や音読を行いました。読書に親しみ、読書の習慣を定着させ、ひいては、子どもたちの能力を引き出すプロジェクトであり、また、現地のNGOにとっても初めてのプロジェクトであることから、丁寧にフォローしつつ、今後の拡大の可能性も模索していきたいと考えています。

児童の栄養状態の改善を目指すリトルシェフプロジェクトでは、少数民族が多く居住する、特に困窮度の高い地域におけるAEFAプロジェクト校を対象に実施しています。少数民族の子どもたちは、タンパク質などバランスのとれた食事をとることができない、また保護者の知識不足により十分な栄養を摂取できず、ラオス全体で比較しても、心身の成長が遅れてしまいがちです。また、このプロジェクトは、ポスト・コ

ロナとウクライナにおける戦争の影響もあります。他のプログラムと同様、高学年の子どもたちをリーダーにして、低学年の子どもたちを含めて、学校全体で自ら学びを深める教育プログラムを丁寧に進めることを通じて、少数民族特有の課題であるリーダーシップの育成、学校教育の充実、ひいては、地域全体の教育に対する肯定感と参加協力の醸成にも寄与するプログラムとなっています。

教育を担う先生へのサポート、また、将来地域を担う卒業生を支える先生基金・奨学金も継続しました。本年では5名が職業訓練校やカレッジを卒業、山岳部サラワン県タオイ郡出身の5名が新たに奨学生となり、10名の学び(サラワン県教員養成短大・ベトナム クアンチ省医療大学・職業訓練校・カレッジ)を支援しています。

経済力の弱いラオスでは、ポスト・コロナやウクライナにおける戦争の影響もあって、インフレが深刻となっており、大規模な建設事業の見込みはなかなか立ちません。今後も現地の状況、ニーズをよく踏まえながら、活動を続けていきたいと考えています。

スリランカ

ラオスと同様、経済力の弱いスリランカでは、ポスト・コロナやウクライナにおける戦争の影響もあって、インフレがきわめて深刻で、支援者の寄附によって学校建設を内定したものの、工事着工に向けた環境が整わず、本年度内における着工は見送りました。工事環境の改善は日々進んでいるとの現地からの連絡もあり、次年度早々にも着工できる見込みです。

引き続き、現地と緊密な連携を進めながら、建設の進捗を確認していきたいと考えています。

その他

マレーシアでは、引き続き、セランゴール州にあるミャンマー出身チン族難民の学校であるCSOプチョン校(Chin Student Organization Puchong)の運営を支援しています。

タイでは、コロナ感染拡大によって、推進してきた農業プロジェクトが延長していましたが、事務所兼作業所が完成し、拠点を活かした活動が進められています。

各地域における教育支援プロジェクトの概要は表2のとおりです。

(表2)2022年度教育支援プロジェクト一覧

	支援プロジェクト	支援者(敬称略)
ベトナム		
1	レインボーライブラリー 3校 (ニンライ小・バンコン小・ルンカオ小)	エルセラーン1%クラブ
	レインボーライブラリー 1校 (クアントウルン小)	医療法人社団 ALBA
2	No8 La Van Cau 小寄宿舎(一部支援)	一般寄附
3	Star Fish フェーズ II(メンタルヘルス) (キムソンカシトン小)	一般寄附

4	FASTER PLUS(バレーボール&スポーツコート) (キエンティエット小)	特定非営利活動法人 Shared Smile Japan
ラオス		
5	奨学金・先生基金	小牧修、田宮雅子、一般寄附
6	リトルシェフ(栄養状態改善) (パヌアン小、ファイラ小、ハーコーナム小中、ビエンカム小中、カトゥア小、ガザ小)	一般寄附
7	ルアンナムター県ノンカム中高校水道	Syncableによる一般寄附、千崎眞佐子、 パクチーアジア支援の会、跡見学園中高校、 リアンコーポレーション社
8	図書館 2 校 (ナボーン中高校、ビエンカム小中校)	エルセラーン1%クラブ
9	図書館 1 校 (マイバンマセル中高校)	荒川商業高等学校 PTA、桐門会、 佐野容子
10	チャンヌア小スポーツコート及び浄水器	東京都武蔵村山市立第八小学校
その他、日本の学校の子供たちの活動から、ラオスの小学校に教材やスポーツ用品を支援した。		
スリランカ		
11	ウィーラヘラ小中学校修復	熱中小学校江丹別分校 小学校を作ろうボランティア部
マレーシア		
12	CSO プチョン校維持運営支援	服部駒子、自由学園初等部、津市立村主 小学校他一般寄附

<交流事業>

コロナの影響もあって、学校向けの出前授業の要請は限られ、オンラインによって5校(港区赤羽小・自由学園初等部・さいたま市植水小・長野市大岡小・津市村主小)において実施しました。日本の学校で実施してきた「出前授業」は累計759回となりました。

また、学校以外において、コロナ禍の現地の状況等に関する勉強会を、支援者や会員等を対象に開催しました(3回)。

<広報活動>

ホームページの更新・ソーシャルメディア(FacebookおよびInstagram)による発信に取組み、会報33号と34号を発行しました。また、毎月オンライン交流会(読書会、SutekiVietnam(ベトナムの方との交流会)、理事長と語ろう会、絵本を読む会、出張報告会)を開催しました。

2. 収支および資産、会員の概況

＜収支および資産の概況(単位:千円) 千円未満切捨＞

当期収入額 69,245 = 一般寄附 67,780+会員会費 1,465

当期支出額 80,910 = 建設事業費 68,371+交流事業費 5,722+管理費 6,816

当期事業収支 ▲11,664

経常外収入 9,620

期末正味資産 40,616

＜会員の概況＞

会員数:個人会員 160名(うち正会員53名)、法人会員 11 社(うち正会員 2 社)

会費収入は昨年比325千円減の1,465千円。正会員数は、年々増加(本年2割増)

3. 事業支出内訳

事業支出の内訳は以下のとおりです。

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (単位:千円)
建設事業	① <学校建設> ベトナム・ラオス・スリランカの山岳地域の学校および図書館建設(読書啓蒙活動を含む)		① 3カ国 6校		①地域の住民及び児童生徒: 1校平均150名程度 合計約950名	
	② <教育支援プロジェクト> ベトナム StarFish フェーズ II ラオス リトルシェフプロジェクト	2022.1.1 ～ 12.31	② 2カ国 ベトナム ラオス	4名	② ベトナム 児童計67名 及び地域住民 ラオス 小・中学校8校 児童生徒計800 名および地域住民	68,372
交流事業	① 日本国内出前授業: 計5回(累計759回)		① 日本 5校		①各回: 約35名 ～100名 合計:約200名	
	② 児童生徒奨学金及び 教師育成事業	2022.1.1 ～ 12.31	② ラオス	2名	② ラオス教員養成短大生、職業訓練校他10名	5,722
	③ マレーシア難民学校支援		③マレーシア		③ 約100名	